

応募者名・応募システム名称等

㊦ 応募者	株式会社山陰合同銀行
住所	〒690-0062 島根県松江市魚町10番地
㊦ 応募システムの呼称 簡潔でわかりやすい呼称 通常使われている呼称	地域電子マネー「ごうぎんデュプリ」
㊦ 応募システムの概要 システムの簡潔な説明と アピールポイント (200字程度)	山陰地域でヒト・モノ・カネを循環させ、地域活性化を図る「地域カード戦略」のもと、平成25年11月11日から山陰地方で便利に使える独自の電子マネーを展開(地方銀行初)。電子マネー「ごうぎんデュプリ」とクレジットカードが決済できるハイブリッド端末は3G回線を使用したモバイル端末とし、会員および加盟店に新たなバリューを提供する。
提出日	2014年2月14日

応募者情報

該当するものを残して他を削除して下さい

①従業員数	(連結)1,996人
②直近会計年度売上 またはそれに相当するもの	(経常収益、連結)91,010百万円
資本金	(連結)20,705百万円

ご担当者名	鍵 泰範
ご担当者所属	営業企画部
ご担当者役職	副調査役
ご担当者電話	0852-55-1863
ご担当者電子メール	duocardclub@gogin.co.jp

(注)「中小企業」とは次の何れかに該当するものをいいます(中小企業法第2条)

- 一 資本金の額又は出資の総額が三億円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が三百人以下の会社及び個人であつて、製造業、建設業、運輸業その他の業種(次号から第四号までに掲げる業種を除く。)に属する事業を主たる事業として営むもの
- 二 資本金の額又は出資の総額が一億円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が百人以下の会社及び個人であつて、卸売業に属する事業を主たる事業として営むもの
- 三 資本金の額又は出資の総額が五千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が百人以下の会社及び個人であつて、サービス業に属する事業を主たる事業として営むもの
- 四 資本金の額又は出資の総額が五千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が五十人以下の会社及び個人であつて、小売業に属する事業を主たる事業として営むもの

③タイプ	甲. 営利組織
④業種	10. 金融・保険業 帝国データバンク産業 分類に基づく
⑤規模区分	B. その他

応募システムの構成要素

クライアント

PC・携帯電話・スマートフォン・タブレット・通信モジュール内蔵機器、モバイルプリンター、カードリーダー等

クライアント	台数
加盟店用決済端末 VEGA5000 (セイコーインスツ ル製CDMA 1X通信 モジュール WM-M320内蔵)	310
計	310

ネットワーク

モバイル (3G/LTE) ネットワーク、衛星通信、固定通信、LAN、無線LAN、内線等

ネットワーク	キャリア
加盟店用決済端末 3G	au
カード会員 3G/LTE	Free

センター

センター設備・システム・ASP/SaaS/クラウドのシステム等

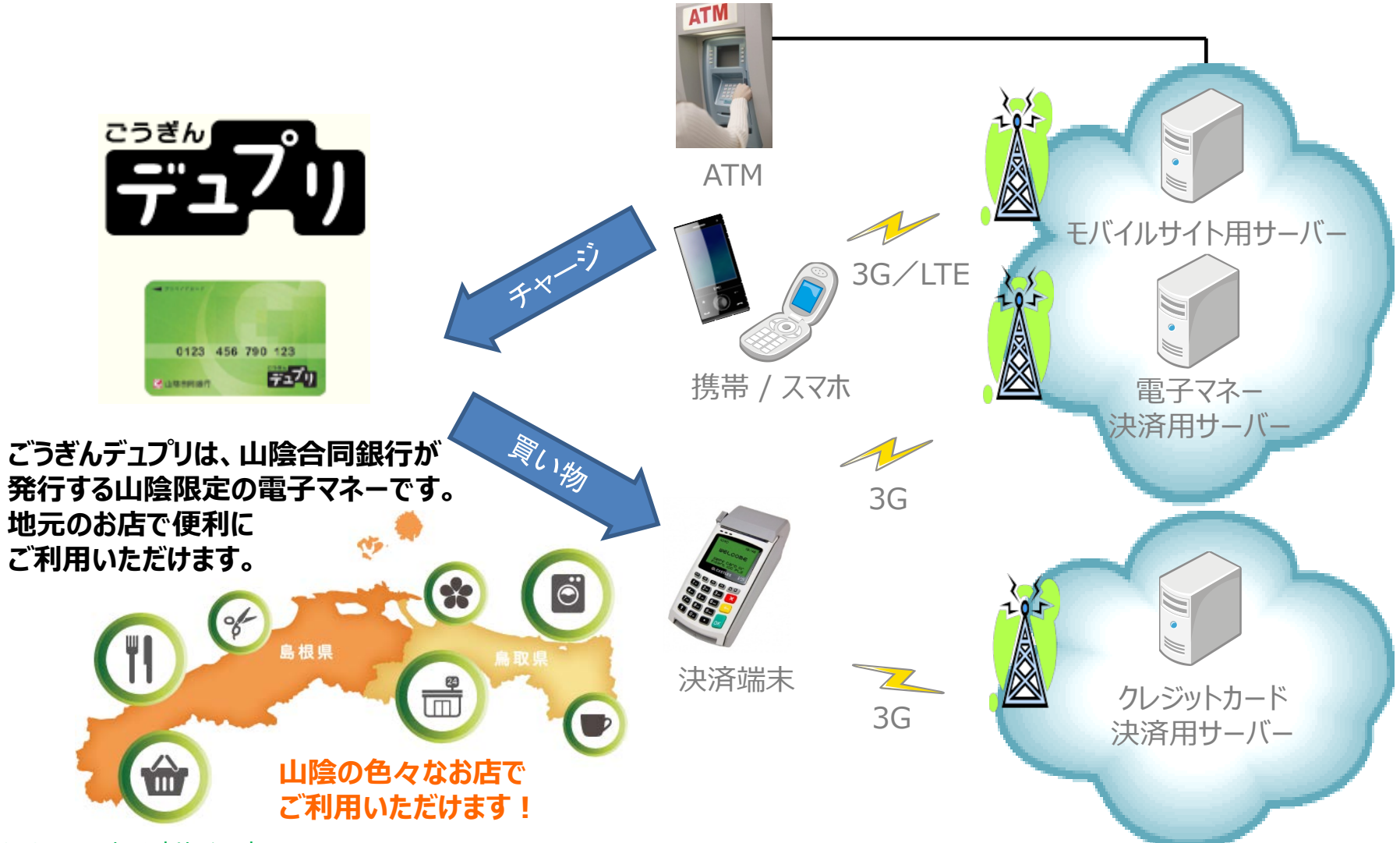
社内システム
勘定系
決済サーバー
モバイルサイト用サーバー

ASP/SaaS/クラウドシステム
株式会社ゆめカード(ASP)
株式会社シー・オー・シー

4

応募システムの全体像

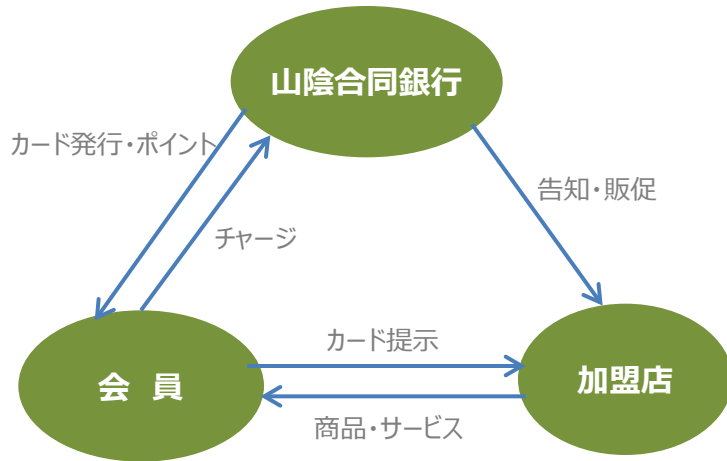
各要素のつながりをシステムの全体像（図）にまとめて下さい



こうぎんデュプリは、山陰合同銀行が発行する山陰限定の電子マネーです。
地元のお店で便利にご利用いただけます。

山陰の色々なお店で
ご利用いただけます！

応募システムのユーザー像・ユーザー数



B2...C

ユーザー像	ユーザー数
会員	3,000

会員目標 : 30万人

ユーザー像	店舗数
コンビニエンスストア	125
スーパーマーケット	15
その他	2

技術

最先端技術へのチャレンジ・先進性／独創的な工夫

- 決済端末は電子マネー「ごうぎんデュプリ」とICクレジットが決済できるハイブリッド端末。



- 決済端末はKDDIの通信モジュールを搭載し、auの電波が届くあらゆる環境下で3G回線による安定した決済を実現。電子マネー決済とICクレジット決済は異なるセンターで処理されるが、通信モジュールの機能を活用し、1台の決済端末で両方に対応。
- 費用対効果を勘案し、当初は磁気接触型プリペイドカードを発行するが、決済端末をNFC対応とすべく開発を行った。MasterCardのPayPassおよびVisaのpayWaveに対応した上で、NFCを搭載した電子マネー「ごうぎんデュプリ」のカードを発行し、非接触決済へ移行する予定。NFCを搭載したスマートフォンの普及状況を見ながら、スマートフォンへの対応も行う。



- チャージ方法として、「ATMチャージ」と「携帯チャージ」を用意。「ATMチャージ」は、銀行の既存インフラを有効活用。「携帯チャージ」は、携帯電話の簡単な操作により、事前に登録した普通預金口座から口座振替の仕組みを利用して即時にチャージすることが可能。

提供価値

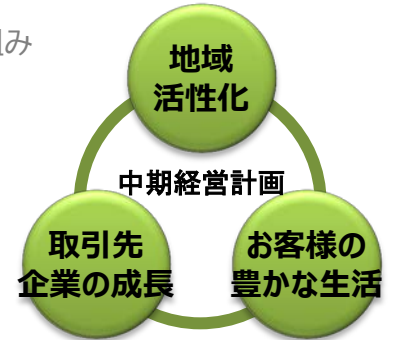
人々の「暮らし」をかえた（かえる）／会社の「シゴト」をかえた（かえる）

地方銀行の収益の二本柱は
今後の縮小が予想されている

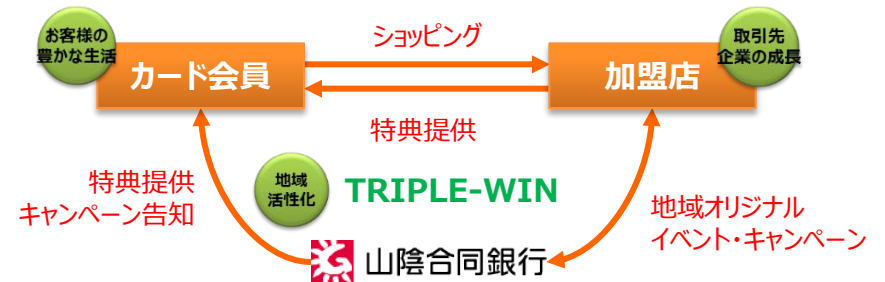


山陰合同銀行 の取り組み

- 暮らしの向上
- 消費の活性化
- 地域で資金が循環する仕組み



地域密着型カード事業



日本経済新聞
2014年1月25日 (朝)
金融庁、地銀に再編促す



平成25 事務年度
金融モニタリング基本方針
(金融庁)

地域密着型金融の深化

<着眼項目>

- ① 顧客のライフステージに応じたコンサルティング機能の発揮
- ② **地域経済の活性化への貢献**
- ③ 地域や利用者に対する積極的な情報発信

日本経済新聞
2014年2月3日 (朝)



提供価値

人々の「暮らし」をかえた（かえる）／会社の「シゴト」をかえた（かえる）

ごうぎんデュプリ



+



通信モジュール内蔵

Duoカードとデュプリの両方に
対応した**ハイブリッド端末**

どこでも導入

固定回線不要

消費者

カード会員さま

- ☑ カードでためたポイントが日常の買物で使える
- ☑ 高齢者や未成年者も安心して使える便利な決済手段
- ☑ **決済端末に通信モジュールを使うことで**、少子高齢化の進む中山間地域でもキャッシュレス・ショッピングを実現
- ☑ 銀行・加盟店による各種キャンペーン・イベントの実施

企業・中小企業・店舗

加盟店さま

- ☑ 地域共通ポイントによる顧客のロイヤルティ向上、売上増
- ☑ 電子マネーとポイントシステムを自前で構築することなく安価に利用
- ☑ **通信モジュールの利用**で固定回線不要
- ☑ モバイル端末を活用した**新たなビジネス・チャンス**の創出
- ☑ 外国人観光客へのサービス向上（NFC）



山陰合同銀行

- ☑ 地域カード戦略の深化
- ☑ 会員サービスの向上
- ☑ **ポイント活用・ポイント地産地消で地域経済・中小企業を活性化**
- ☑ 手数料収入
- ☑ 決済データによる地域経済・支出動向の把握と中小企業支援等への活用
- ☑ **どこでも利用できる決済端末**で加盟店獲得を加速
- ☑ Duoカード決済にも対応

ユーザーの評価

応募システムに対する利用者の評価

利用頻度

平均的ユーザーの利用頻度をA～Dの四段階で記入して下さい。

- A. ほぼ毎日 B. 週に数日
C. 月に数日 D. それ以下

B2E

ユーザー像	ユーザー数	利用頻度	ユーザーの評価・ユーザーの声
行職員	2,000	A	<ul style="list-style-type: none">クレジットカードと比較して、発行手続、期中管理等が簡単になった。

B2…B

ユーザー像	企業数	ユーザー数	利用頻度	ユーザーの評価・ユーザーの声
加盟店	4	142	A	<ul style="list-style-type: none">決済端末が持ち運びできて便利。レジでの決済が早くなった。

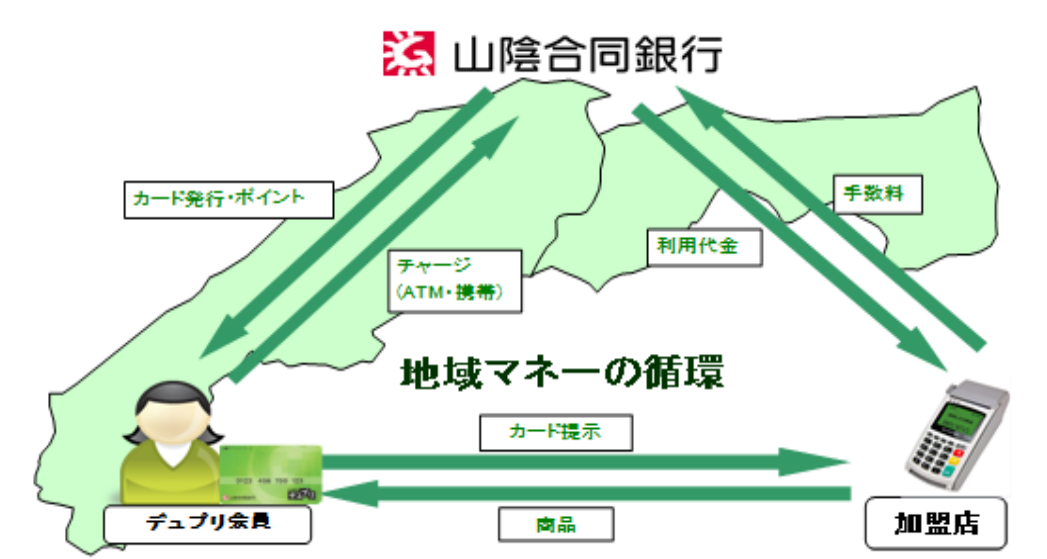
B2…C

ユーザー像	ユーザー数	利用頻度	ユーザーの評価・ユーザーの声
会員	3,000	B	<ul style="list-style-type: none">毎日の買い物でポイントが付くようになったのでお得。現金を出さなくてもいいので便利。

その他

その他のアピール・ポイント

- 独自の電子マネーの発行は、地方銀行で初。
- サーバー型電子マネーおよび記名式カードを採用することにより、カード紛失時の利用停止・再発行が可能。
- チャージ方法として、「ATMチャージ」と「携帯チャージ」を用意。
「ATMチャージ」は銀行の既存インフラを有効活用し、高齢者でも簡単にチャージ可能。
「携帯チャージ」もクレジットカードによるチャージではなく、口座振替の仕組みを利用して即時にチャージ。
- 銀行取引に応じたポイント付与を自在に設定可能。地域の消費活性化に貢献。
- 拡張性も考慮～地域の決済インフラとして整備することで、他の電子マネー決済を取り込む。



導入経緯や問題点とその克服など

平成22年4月からICキャッシュカード一体型クレジットカード「Duoカード」を発行し、ヒト・モノ・カネを地域で循環させる「地域カード戦略」を推進



(平成25年12月末時点で山陰の総人口：約130万人に対し、発行枚数：約23万枚)

クレジットカードの課題

- ❑ 全ての人を持ってない（年齢・審査）
→ 少子高齢化が進展すると、会員数が頭打ち
- ❑ 小額決済では使われない
→ 小額決済では収支が赤字のケースも
- ❑ ポイントの県外流出
→ ギフトカードへの交換が一番多い

電子マネーの利点

- ❑ ほとんどの人が持つことができる
(入会金・年会費なし、審査不用)
- ❑ 主に小額決済で利用
- ❑ 地元加盟店でのポイント利用
→ クレジットのポイントをデュプリへ移行※

※「ごうぎんデュプリ」のポイントは、税込200円の決済
毎に1ポイント付与され、500ポイント貯まると自動的にデュプリ電子マネーと交換

地域カード戦略の深化

- ❑ ヒト・モノ・カネの地域循環
- ❑ ポイントの地産地消
- ❑ 地域活性化